

通級指導教室 自立活動学習指導案

通級指導教室 (あけぼの教室)

3人 (2年生 3人)

指導者 T1 佐藤 貴美子 T2 溝上 貴美

1 活動名 あったかことばで, スーパー2年生

2 子供の実態

	人間関係の形成	コミュニケーション
A 児	<ul style="list-style-type: none"> 相手の思いや感情を読み取り, それに応じて行動することが難しい。 グループ活動の際に, 自分のペースで物事を進めたり, うまくいかないときに気持ちの調整が難しく, 勝手に活動を止めたりするときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 理由や根拠を自分の言葉で伝えたり, 適当な言葉でやり取りしたりすることが難しいときがある。 学習の場で教師が設定した場面では, 言葉言うことができるが, 勝負事や順番がある活動になると, 口調が強くなりがちである。
B 児	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちや考えをタイミングよく伝えることが難しく, 他者からは「譲ってくれる優しい人」として捉えられることがある。 経験した場面では, 自分の言葉で話し掛けることができつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一度トラブルがあると, 関係を修復するのに時間が掛かる。 熟語や五七五のリズムに乗せて伝えようとするなど言葉への興味はあるが, 要領よく分かりやすく伝えることが難しい。
C 児	<ul style="list-style-type: none"> 他者と関わろうとするが, その方法が十分に身に付いていない。身近な教師とは少しずつやりとりができるようになってきている。 衝動の抑制が難しい場面があり, 目的に沿って行動を調整することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味の幅が狭く, 限られた話題について一方的に伝えて満足する場面があり, 言葉のやりとりが難しいときがある。 思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせてしまうことがある。

3 活動の目標

A 児	<ul style="list-style-type: none"> 場に合った言葉 (以下, あったかことば) やそれを言うタイミングを身に付け, 友達と関わりをもとうとする。 【3 人間関係の形成(3)】 「自分の問い」交流タイムで, あったかことばをタイミングよく教師と一緒に言うことができる。 【6 コミュニケーション(5)】
B 児	<ul style="list-style-type: none"> あったかことばやそれを言うタイミングを身に付け, 他者と積極的に関わりをもとうとする。 【3 人間関係の形成(3)】 話し合いなど実際の場面や再現した場において, あったかことばをタイミングよく言うことができる。 【6 コミュニケーション(5)】
C 児	<ul style="list-style-type: none"> あったかことばやそれを言うタイミングを身に付け, 身近な人と関わりをもとうとする。 【3 人間関係の形成(3)】 あったかことばとチクチクことばがあることや, 言うタイミングに気付き, あったかことばを進んで言うことができる。 【6 コミュニケーション(5)】

4 活動で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	状況を見通して, これまでの学習や日常生活の中で, あったかことばをタイミングよく言うことができているかについて, これまでの自分を振り返り, 「自分の問い」をもつ力
見通す力	「自分の問い」の解決に向けて, これまでの学習 (活動マップや成長を可視化できるメーターの活用等) や生活の経験を生かしながら, 解決方法を考える力
協働力	「自分の問い」の解決に向けて, あったかことばやそれを言うタイミングを見付けるために, 友達と話し合ったり, 教え合ったりして, 問いを解決する力
振り返る力	あったかことばとタイミングについて, メーターで, 活動前後の自分を数値化し, その根拠を考えたり, 振り返ったりする力

5 活動設定の理由

3人の子供は、友達と一緒に遊んだり、話したりすることが好きである。これまで「自分の気持ちや行動をコントロールし、先生や友達と仲よくできる人」を「スーパー2年生」と位置付け、それに近付こうと取り組んできている。その中で、名前を呼んだり、挨拶をしたりしながら、初めての人とも徐々に関わりがもてるようになってきている。また、教師と一緒にあれば、設定場面や促された際には、「ありがとう。」や「大丈夫。」などの場に合った言葉を言うことができるようになってきている。しかし、自分たちだけで活動する場面では、友達と仲よく関わりたいと思いつつも相手の状況を察することが難しく、気持ちや考えを伝える適切な言葉やそれを言うタイミングが分からず、自分の思うように物事が進まないために気持ちが崩れて活動を止めてしまう子供や、他のことが気になってしまい、違う活動を始めてしまう子供も見受けられる。また、そのことが原因でトラブルになり、「ごめんなさい。」を言えずにトラブルを解決できないこともある。

そこで本活動では、解決名探偵になって3人で事件を解決しながらスーパー2年生を目指すことを目標に、二つの活動「解決名探偵になる修行」、「解決名探偵、事件を解決」を行い、あったかことばをタイミングよく言うことで、友達と仲よく活動するよさに気付けるようにする。なお、設定場面は、場を捉えて言いやすい「ありがとう。」から、言うタイミングが難しい「ごめんなさい。」の場面へ、スキルを身に付ける活動（修行）からスキルを生かす活動（事件解決）へ段階的にステップアップすることで、「あったかことばをタイミングよく言うことができた。」という成功体験を重ねていくことができるようにする。また、想定場面や話し合いでは、友達のことを考えてあったかことばを言ったり、友達の考えを共感的に聞いたりすることで、よりよい人間関係を築きながら関わることができるようにする。特に話し合いでは、自分の考えを整理するための思考共有ツールを選択できるようにすることで、友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりする活動がスムーズに行えるようにし、考えを表出したりみんなで話し合ったり決めたりすることの楽しさを味わえるようにする。あったかことばをタイミングよく言ったり言われたりすることの心地よさを味わう経験をすることで、日常生活で同じような場面に遭遇した際にも、学習したことを生かして実践しようとする意欲を高めていくものとする。

このような学習を通して、3人の子供は状況を見通し、仲よくする力を身に付け、他者とよりよいコミュニケーションを図ることができるスーパー2年生に近付いていくものとする。

6 指導に当たって

(1) 「必要性」を実感する教師の手立て

「自分の問い」づくりタイムでは、まず言われてうれしいことばとそうでないことばを日常場面から見付け、比較することで、あったかことばのよさを理解できるようにする。また、うまく関わることのできていない場面の動画を視聴する場を設定し、「解決するためには、どうしたらよいのか。」と問いかけることで、「気持ちのバトンを渡すための大切なポイント（「あったかことばで」、「タイミングよく」）を使えばよいのではないのか。」という課題意識をもつことができるようにする。次に、大切なポイントを意識してタブレットPC上で動画を操作したり、役割演技をしたりすることで、そのよさを実感しながら活用できるようにする。さらに、成長を可視化できる「スーパー2年生メーター（10段階）」や「かいけつメーター（5段階）」で活動前の自分を振り返り、できるようになりたい自分を「自分の問い」として設定することで、課題意識をもって活動に参加することができるようにする。なお、5～7時では、事件を解決するために、あったかことばを「かいけつことば」、それを言うタイミングを「かいけつタイミング」とすることで、相手意識をもちながら、解決の方法を話し合うことができるようにする。

(2) 「自律性」を実感する教師の手立て

「自分の問い」追究タイムでは、「解決名探偵になるには（事件を解決するには）どうすればよいのか。」と問いかけたり、これまでの解決方法を提示したりすることで、解決方法を考えたり選択したりすることができるようにする。また、自分の考えを整理する際は、自分で選択した思考共有ツール（短冊カードやタブレットPC）を活用することで、考えを可視化し、安心して考えを表出できるようにする。学びの過程を記録する際も、用紙やタブレットPCなど自分で選択したツールにメモをし、課題解決の方法をまとめた報告書を作成することができるようにする。

(3) 「関係性」を実感する教師の手立て

「自分の問い」交流タイム（「かいけつタイム」）では、「気持ちのバトンを渡すための大切なポイントを意識して活動しているか。」という視点を提示することで、子供が自分のがんばりや課題を焦点化して話し合いが行えるようにする。その際には、短冊カードやタブレットPCなどの思考共有ツールを活用して、考えを可視化できるようにする。また、話し合いや役割演技の場面において、大切なポイントを意識し、活用している互いの姿を認め合うことで、よりよい関わりがもてるようにする。

(4) 「有用性」を実感する教師の手立て

「自分の問い」振り返りタイムでは、メーターで、活動前後の自分を数値化し、その根拠を考えることで、「大切なポイントに気を付けたから、解決名探偵になる（事件を解決する）ことができた。」ということを実感し、達成感や成長の喜びを味わえるようにする。また、解決策を在籍学級に報告し、できたことを認めてもらうことで、有用性を実感し実生活に生かしたいという思いを高められるようにする。

7 指導・評価計画 (全8時間)

◆…重点評価項目

	1	2	3	4	5	6	7(本時)	8	
つかむ・見通す	1 スーパー2年生について確認する。 2 学習課題を決める。 【活動全体の課題】 解決名探偵になって事件を解決しよう。 3 大切なポイントを考える。 ・ あったかことばで ・ タイミングよく 4 本時の学習課題を決める。 言葉を選んで、あったかことばを集めよう。	解決名探偵になるための修行をしよう 1 前時の学習を振り返り、大切なポイントについて確認する。 2 本時の学習活動を確認する。 あったかことばをタイミングよく伝えて、解決名探偵になろう。 3 動画を視聴し、今日の場面を知る。			場面「ありがとう」 ① 消しゴムを落とした。友達が拾ってくれた。 ② 自分は受け取り、友達は席に着いた。	場面「だいじょうぶ」 ① けいどろをしていたら友達が急にお腹が痛くなった。 ② 自分は遊びを続けたが友達は痛そうだった。けんかになった。	場面「ごめんなさい」 ① 友達が教室に入ってくるところだったドアを開けてしまった。 ② 友達は入れなかった。けんかになった。	解決名探偵、事件を解決してスーパー2年生に近付こう 1 大切なポイントを確認する。 2 在籍校からの依頼動画を視聴し、未解決場面を確認する。 場面「ありがとう」 ぼくは牛乳をこぼした。友達が拭くのを手伝ってくれた。拭き終わった友達は席に戻った。不機嫌だった。 場面「だいじょうぶ」 おにごっこで走っていた。友達が転んでしまった。ぼくは鬼にかまらないように逃げた。友達は痛そうだった。 場面「ごめんなさい」 前へならえをして後ろに下がったら友達の足を踏んだ。友達は何も言わなかった。ぼくはそのまま体操を始めた。友達は怒っていた。 事件1を解決する。 事件2を解決する。 事件3を解決する。	1 これまでの学習を振り返る。 2 事件解決の感謝状を受け取る。 3 本時の学習活動を確認する。 できるようになったことを使ってゲームをしよう。 4 「自分の問い」を決める。 5 解決の方法や流れを確認する。
活動する	5 あったかことばとチクチクことばを選別する。 6 「スーパー2年生メーター」で学習前の自分を数値化し目標を設定する。	7 「かいけつタイム」をする。 (1) 動画停止時に言うあったかことばを考える。 (2) 動画を視聴しながら、あったかことばを言うタイミングで動画を止める。(タブレットPC) (3) タイミングを確認する。 (4) 役割演技をする。(テスト)			7 「かいけつタイム」をする。 (1) 話し合い「かいけつことば」を選ぶ。 (2) 話し合い「かいけつタイミング」を考える。(タブレットPC) (3) 役割演技で確認する。 (4) 報告書を作成する。 (本時)「ふんどとき(行動)このタイミングでごめんなさい(言葉)」			6 「あったかことばゲーム」をする。	
振り返る	7 活動名を話し合う。「あったかことばで、スーパー2年生」 8 活動の見直しをもつ。 9 次時の学習を知る。	8 本時の学習を振り返る。 ・ 教師が価値付けて評価する。 ・ アイテムを手に入れる。 9 次時の学習を知る。(4時 解決名探偵合格・三つの事件の依頼) ◆ 気持ちのバトンを渡すためのあったかことばやタイミングを見付けることができる。 【コミュニケーション:評価カード・観察】			8 本時の学習を振り返る。 ・ 自己評価をする。 ・ 相互評価をする。 9 次時の学習を知る。 ◆ 「自分の問い」に気を付けながら、話し合ったり設定場面であったかことばをタイミングよく言ったりしながら関わろうとしている。 【人間関係の形成:評価カード・観察】			7 活動全体を振り返る。	
学びの価値を見いだす子供の反応	・ 自分も友達と仲よくできるスーパー2年生に近付きたいな。気持ちのバトンを渡すための大切なポイントは何かな。	・ 動画を視聴しながらあったかことばを言うタイミングを見付ける方法だと、解決名探偵になれそうだ。	・ 自分の考えを整理するときは、タブレットPCに書こう。考えが見えるので、安心して伝えることができそうだ。	・ あったかことばをタイミングよく言いながら考えを伝え合うと、話し合いがスムーズに進んで事件を解決することができた。	・ やはりあったかことばをタイミングよく言うことは、気持ちのバトンを渡すために大切なポイントだね。大切なポイントを学級でも使ってみよう。解決できたからスーパー2年生に近付くことができたね。				

	必要性	自律性	関係性	有用性
主な教師の手立て	○ スーパー2年生に近付くためには、他者と関わる際の言葉が大切であることに気付くことで、学習意欲をもつようになる。 ○ 「スーパー2年生メーター」や「かいけつメーター」を基に、その数値の根拠を考えることで、「自分の問い」を設定し、根拠をもってメーターの数値を上げたいという意欲をもつことができるようにする。	○ 「解決名探偵になるには(事件を解決するには)どうすればいいのか。」と問いかけたり、これまでの解決方法を提示したりすることで、解決方法を考えたり、選択したりすることができるようにする。 ○ 自分の考えを整理したり、保存したりする際は、自分で選択した思考共有ツール(短冊カード、メモ用紙やタブレットPC等)を活用することで、考えを可視化できるようにする。	○ 依頼動画を視聴して、解決策を話し合う際に、大切なポイントを意識して交流したり、話し合いでできた関わりのよさを認め合ったりすることができるようにする。 ○ 考えを整理したり伝え合ったりする際には、短冊カードやタブレットPCなどの思考共有ツールを活用して考えを可視化できるようにする。	○ 3人で確認した大切なポイントを役割演技で確認することで、解決できたことを価値付け、達成感や成長の喜びを味わえるようにする。 ○ メーターの数値で自分の成長に気付く、今後も気持ちのバトンを渡すための大切なポイントに気を付けたいという学びのよさを実感できるようにする。

8 本時(7/8)

(1) 目標

個人目標	A児	あったかことばを使いながら話し合ったり、話し合った「かいけつタイミング」で、「かいけつことば」を言ったりすることができる。
	B児	状況を見て、「かいけつタイミング」を見付けたり、「かいけつことば」を言ったりすることができる。
	C児	「かいけつタイミング」で動画を止めたり、話し合った「かいけつタイミング」で「かいけつことば」を言ったりすることができる。

(2) 展開

□ 教師の言葉掛け □ 予想される子供の反応 ◆ 評価に関する

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	主な教師の手立て (㊸: 必要性 ㊹: 自律性 ㊺: 関係性 ㊻: 有用性)
つかむ・見通す (10)	<p>1 前時までの学習を振り返り、気持ちのバトンを渡すための大切なポイントについて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> かいけつことば かいけつタイミング <p>2 在籍校からの動画を視聴し、未解決場面(事件3)を確認する。</p> <p>3 本時の学習活動を確認する。</p> <p>かいけつことばとかいけつタイミングを見付けて、事件3を解決しよう。</p> <p>4 「かいけつメーター」で今の自分を知る。</p> <p>「ごめんなさい」を伝えたら解決する場面だな。修行中は目盛りが4になった。目盛りを5にして事件を解決したいな。どうしたら目盛りが上がるかな。</p>	<p>㊸ 依頼動画を視聴することで、解決名探偵として、気持ちのバトンを渡すための大切なポイントを見付けて、事件を解決したいという意欲を高める。</p> <p>㊸ 成長を可視化できる「かいけつメーター」や「できたかなカード」で前回の自分を振り返り、「かいけつメーター」の数値を上げるための条件(かいけつことばと「かいけつタイミング」)を設定することで、根拠をもってメーターの数値を上げることができるようにする。</p> <p>㊹ 「解決名探偵になるためにはどうすればいいのか。」と問いかけたり、「活動マップ」で流れを確認したりすることで、学習に見通しをもつことができるようにする。</p> <p>㊹ 考えを伝え合う際は、これまで活用したいくつかの思考共有ツール(短冊カード、タブレットPC)を提示して、子供がより活用しやすいツールを選択して使うことで、考えや理由を可視化し、自分の考えを整理することができるようにする。</p> <p>(個に応じた具体的な手立て)</p>
活動する (25)	<p>5 「自分の問い」を決める。 【「自分の問い」づくりタイム】</p> <p>目盛りを5に上げるために、かいけつことばを言うタイミングを見付けよう。</p> <p>6 解決の流れや方法を確認する。</p> <p>7 「かいけつタイム」(話し合い)をする。 【「自分の問い」追究・交流タイム】</p> <p>(1) 「かいけつことば」を選ぶ。(1人で→3人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面の確認をする。 あったかことば一覧から選ぶ。 <p>(2) 「かいけつタイミング」を見付ける。(1人で→3人で)</p> <p>タブレットPC</p> <p>友達が怒ったときに、「ごめんね」と言えばよいと思います。どうですか。なるほど。ぼくは、足を踏んだときに、「ごめんね」と言えばよいと思います。</p> <p>(3) 役割演技をして、話し合った言葉とタイミングを確認する。</p> <p>(4) 報告書を作成する。</p> <p>「足をふんだ(行動)とき このタイミングで ごめんなさい(言葉)」これで解決できそうだ。</p>	<p>A児 前もってできていた場面を価値付けたりすることで意欲を持続できるようにする。また、話し合いで考えを譲れないときには、「それいいね。」や「そうしよう。」などの「かいけつことば」を使って自分の考えを調整することで、大切なポイントを見付けることができるようにする。</p> <p>B児 「〇〇さんの考えを教えてもらって、うれしいな。」「ぼくの考えを聞いてくれて、ありがとう。」など自分の気持ちを伝えたり、交互に考えを聞いたりできていることを称賛することで、落ち着いて話し合いに参加できるようにする。</p> <p>C児 「かいけつメーター」の目盛りが上がる数値的な根拠や活動が順番通りに流れていることの確認をすることで、「自分の問い」の解決に向け、集中して活動を進めることができるようにする。</p> <p>㊸ 前時までの話し合いを振り返って気付いた課題の解決に向け、「あったかことばで」、「タイミングよく」を意識して話し合うことで、考えを一つにまとめることができた喜びを味わったり、人に関わることの喜びが実感できたりするようにする。</p> <p>㊹ 思考共有ツール(短冊カード、タブレットPC)を活用して考えを可視化できるようにすることで、考えを整理したり伝え合ったりすることができるようにする。</p> <p>㊹ 報告書を作成する際は、解決策をメモする思考共有ツール(用紙、タブレットPC)を提示して、子供がより活用しやすいツールを選択して使うことで、学びの過程を記録したり、在籍学級で報告する際の資料にしたりできるようにする。</p>
振り返る (10)	<p>8 本時の学習を振り返る。 【「自分の問い」振り返りタイム】</p> <p>事件を解決することができたのは、何に気を付けたからですか。</p> <p>「かいけつことば」と「かいけつタイミング」を見付けたからです。話し合うときにも二つの大切なポイントに気を付けて話し合ったからです。</p> <p>大切なポイントに気を付けると、気持ちのバトンを渡すことができ、友達と仲よくできるんですね。解決名探偵の3人で、見事事件を解決しましたね。「かいけつメーター」で目盛りを確認しましょう。</p>	<p>㊸ 役割演技を設定することで、自分たちが考えた「かいけつことば」と「かいけつタイミング」のよさを実感し、在籍学級でも生かしてみたいという意欲が湧くことができるようにする。</p> <p>㊸ 事件の解決策を話し合いで見付け、報告書を作成することができたことで、達成感や成就感を味わったり、「かいけつメーター」の数値が上がり、自分が成長したことを実感できたりするようにする。</p> <p>◆ 「自分の問い」に気を付けながら話し合ったり、設定場面であったかことばをタイミングよく言ったりしながら関わろうとしている。【人間関係の形成・評価カード・観察】</p> <p>㊹ 「活動マップ」で次時の学習内容を確認することで、友達と仲よくできるスーパー2年生に近付きたいという意欲を継続できるようにする。</p>
9 次時の学習について知る。	<p>次の時間は、「あったかことばゲーム」だね。</p>	

必要性

自律性

関係性

有用性

通級指導教室 自立活動 授業デザインシート

- 1 活動名 あったかことばで，スーパー2年生
- 2 活動で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	状況を見通して，これまでの学習や日常生活の中で，あったかことばをタイミングよく言うことができていたかについて，これまでの自分を振り返り，「自分の問い」を決める力
見通す力	「自分の問い」の解決に向けて，これまでの学習（活動マップや成長を可視化できるメーターの活用等）や生活の経験を生かしながら，解決方法を考える力
協働力	「自分の問い」の解決に向けて，あったかことばやそれを言うタイミングを見付けるために，友達と話し合ったり，教え合ったりして，問いを解決する力
振り返る力	あったかことばとタイミングについて，メーターで，活動前後の自分を数値化し，その根拠を考えたり，振り返ったりする力

3 本活動の授業デザイン

本活動で育成を目指す資質・能力と特に関わりのある学習活動において以下のような手立てを行い，その有効性を検証しながら授業をデザインすることにした。

	目指す子供の姿	特に関わりのある教師の手立て	時	子供の反応（●課題 ☆改善点）
問題発見力	状況を見通して，これまでの学習や日常生活の中で，あったかことばをタイミングよく言うことができていたかについて，活動前の自分を振り返り，「自分の問い」を決めている。	〈必要性を実感できる教師の手立て〉 ○ スーパー2年生に近づくためには，他者と関わる際の言葉が大切であることに気付いたり，メーターを基に，その数値の根拠を考えることで，「自分の問い」を設定し，根拠をもってメーターの数値を上げたいという意欲をもつことができる。		
見通す力	メーターを基に，「解決名探偵になるために（未解決事件を解決するために），あったかことばを言うタイミングを見付けるぞ。」など，大切なポイントを意識して課題解決の方法を考えている。	〈自律性を実感できる教師の手立て〉 ○ 「解決名探偵になるには（事件を解決するには）どうすればよいのか。」と問い掛けたり，これまでの解決方法を提示したりすることで，解決方法を考えたり，選択したりすることができるようにする。 ○ 自分の考えを整理したり，保存したりする際は，自分で選択した思考共有ツール（短冊カード，メモ用紙やタブレットPC）を活用することで，考えを可視化できるようにする。		
協働力	「自分の問い」の解決に向けて，あったかことばを言うタイミングを見付けるために，自分で選択した思考共有ツールに考えを整理することで，安心して話し合ったり，教え合ったりできている。	〈関係性を実感できる教師の手立て〉 ○ 「気持ちのバトンを渡すための大切なポイントを意識して活動しているか。」という視点を提示することで，子供が自分のがんばりや課題を焦点化して話し合いが行えるようにする。また，話し合いでできた関わりのよさを認め合うことができるようにする。		
振り返る力	あったかことばとタイミングについての自分の考えを，自分で選択した思考共有ツール（短冊カードやタブレットPCなど）を使って表現し，活動を振り返っている。	〈有用性を実感できる教師の手立て〉 ○ 3人で確認した大切なポイントを役割演技で確認することで，解決できたことを価値付け，達成感や成長の喜びを味わえるようにするとともに，メーターの数値で自分の成長に気付き，今後も気持ちのバトンを渡すための大切なポイントに気を付けたいという学びのよさを実感できるようにする。		